

第48回 三八地区臨床検査懇話会  
プログラム

テーマ「再興感染症～梅毒～」

と き 平成31年2月16日（土）午後5時  
ところ 八戸市立市民病院 講 堂

主催 三八地区臨床検査懇話会

共催 八戸市医師会

（一般社団法人）青森県臨床検査技師会三八支部

**開 会** (17:00～)

八戸市医師会臨床検査センター

担当理事

村 井 千 尋

**挨 拶**

八戸市医師会会長

高 木 伸 也

一般社団法人青臨技三八支部支部長

田 代 博 美

## テーマ「再興感染症～梅毒～」

**【話題提供】** (17:10～18:00)

司会 八戸市医師会 臨床検査センター

二澤平 さくら

1、未受診妊婦の梅毒陽性症例

八戸市民病院 臨床検査科

中 里 早 見

2、梅毒の近況と検査について

極東製薬工業株式会社 営業推進部門 営業学部 顧客支援課  
免疫・生化学グループ グループマネージャー

中 岡 啓 一

**休 憩** (18:00～18:10)

## 【特別講演】（18：10～19：20）

司会 八戸市医師会臨床検査センター担当理事

村 井 千 尋

### 『梅毒抗体検査の見方』

講師 そねざき古林診療所 所長

古 林 敬 一 先生

梅毒は数年前から全国的に増加傾向にあり、特に男女間感染の増加が著しい。いわゆる性風俗の場を介しての感染が推測されているが、公式な統計はこれまでなかった。ようやく 2019 年 1 月に感染症法の梅毒発生届出票の様式が変更になったので、実態が徐々に明らかになると思われる。

梅毒は全診療科にわたる多彩な急性・慢性症候を呈するが、無症候の場合も多く、梅毒抗体検査をしないと正しい診断に至らない、もしくは誤診することがある。

その梅毒抗体検査について、新たな知見が得られつつある。従来、梅毒の診断において、STS（Serologic Test for Syphilis; 実情としては RPR 法）が重視されて来たが、RPR 陰性・TP 抗体陽性の早期梅毒が少なくないことがわかってきた。従来の教科書や診療ガイドラインは書き直しを迫られている。

また、梅毒抗体検査においては、検査技師が手作業で行う用手法（2 倍系列希釈法）が廃れつつあり、自動分析装置が測定する自動化法が主流となりつつある。自動化法には様々なメーカーが参入しており、個々の試薬の特性を知って利用する必要がある。また、用手法から自動化法に移行するにあたり、読み替えに一工夫が必要で、そのコツを講演ではお伝えしたい。

## 情報交換会（19：20～）

1F レストラン「やすらぎ」食堂にて医師会、臨床検査技師会、協力会社様他関係各位のみなさんで情報交換会を行います。

**懇話会当日は市民病院駐車場を無料でご利用いただけます。**

**駐車券を会場受付にお持ちください。**